

シリーズ 西淀川記憶あつめ隊

Vol.11

大野川緑陰道路は、かつて大野川という川でした。大野川の河口と淀川河口に囲まれた西淀川区福町で生まれ育った北村正義さん（1925（大正14）年生まれ）と、北村道春さん（1935（昭和10）年生まれ）に、住吉神社でお話を伺いました。
※お二人は兄弟ではありません。
福町は北村さんはじめ同じ名字が多いそうです。

2014年3月26日、4月5日 訪問

◆川は大切な遊びや生活の場
正義さん（以下、正）：私が子ども頃、大野川は水深2〜3m位のメダカやフナもいるきれいな川で、泳いで遊びました。淀川も、河川敷に葦や田畑が広がり水面には青草や藻がしげるきれいな川でした。干潮の時に歩いて渡ることもできました。戦中戦後くらいに川幅が広くなりましたが、昭和13年頃までは川幅の30%位しか水が流れていなかったため、貝の採集に適していたのだと思います。

道春さん（以下、道）：私が子ども頃



4月5日の中島水道サロンの様子。奥の左から北村正義さん、道治さん。

もの頃は、頭に荷物をのせ淀川を泳いで渡ったりました。子どもでも、達者な者は泳いで往復できます。私も1度だけ往復できたことがあります。中学に上がる位の年に、淀川を泳いでいる途中に友人の足がこむらがえりになりました。私は岸まで漁師の助けを呼びに行き、友人は仰向けに浮かんで待ち、助かりました。

学校では禁止されていますが、淀川でハマグリ漁もしました。腰に浮代わりの一升樽をくくり、潮の流れにのり川を移動、足で川底のハマグリを探り潜ってとります。危険もあるのですが、一緒に行動する先輩の言うことには絶対服従です。

◆戦争と福町
正：昭和11年、福町に音楽隊ができました。ラッパ8人と大太鼓

を移動、足で川底のハマグリを探り潜ってとります。危険もあるのですが、一緒に行動する先輩の言うことには絶対服従です。
正：淀川ではトリガイ、アサリ、モチガイ等の貝類がとれ、業者もたくさんいました。昭和23年に福貝類業商組合ができて、昭和63年に解散するまで40年近く続きました。私も会長を務めました。採った貝を加工し販売するのが盛んだったので、福町の土地にはたくさん貝殻が埋められています。

◆台風と福町
正：ジェーン台風（昭和25年）では淀川の堤防が決壊し、特に西島にある外島保養院では多くの死者が出ました。三笠宮親王が供養と視察で訪れることになり、通り道にあたる43号線に立ち並ぶバラック小屋は汚いので撤去するよう命令があり、新しい住居が用意されました。当時のままの生活を

見てもらう方が良いと思うのですが、そういう時代でした。第二室戸台風（昭和36年）では他の地区では大きな被害は出ましたが、福町では死者は出ませんでした。昭和9年の室戸台風の時も福町の被害はなく、福の住吉神社の氏神様のおかげという話もあります。



再建された住吉神社の神馬